

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第3回 宮崎市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年10月23日（水） 午後2時00分～午後3時35分
開催場所	宮崎市上下水道局4階 大会議室（宮崎市鶴島3丁目252番地）
会長氏名	鈴木 祥広
出席者氏名 （委員）	鈴木会長、中川委員、藤崎委員、河野委員、岩切（千）委員、岩切（典）委員、早瀬委員、工藤委員、佐々木委員（計9名）
欠席者氏名 （委員）	清家委員、時任委員、深野木委員、肥田木委員、清水委員、圖師委員（計6名）
事務局	下郡局長、武田管理部長、山元水道部長、大木総務課長、高力財務課長、深田料金課長、飯干給排水設備課長、永山水道整備課課長補佐、黒木配水管理課長、蛭原浄水課長、大谷営業所工務課長、川元下水道整備課長、中野下水道施設課長、長倉財務課課長補佐、徳永主幹、渡部係長、池島主査、前田主任主事、竹山主任主事
傍聴者	なし
次第	報告 （1）令和5年度決算報告について 議事 （1）投資・財政計画について （2）新水ビジョンの構成案について （3）その他

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局 (司会:財務課課長補佐)	ただ今より、『令和6年度 第3回宮崎市上下水道事業経営審議会』を始める。 初めに資料の確認をさせていただく。 まず、机の上に本日の【会次第】、裏面が【経営審議会委員名簿】となっている。 続いて、事前に送付させていただいた資料の確認を行う。 【資料1】「投資・財政計画について」 【資料2】「新水ビジョンの構成案について」 【資料3】「令和5年度決算報告について」 以上、お手元にあるか。もし不足があればお知らせいただきたい。 それでは、宮崎市上下水道局長がご挨拶申し上げます。
局長	今年度第3回目となる経営審議会にご出席いただき感謝申し上げます。 まず、昨日、宮崎県では線状降水帯が発生し大雨だったが、本日は一転して晴れた。県内では、一時通行止めとなる箇所もあったが、お住まいの地域では被害等はなかっただろうか。 また、前回の経営審議会が8月に行われ、その後9月議会があった。その際に、一般質問をいただいたのだが、多かった内容としてはマンホールポンプについてであり、大規模災害時の被害はどのようなものが想定されるのかといった内容だった。その他にも、PFASに関する質問もいただき、10月初旬には決算に関する議会も開かれ、本日第3回目の経営審議会を迎える運びとなった。 今回は、現在策定中である新水ビジョンなどについて説明させていただく。水ビジョンを見直す理由や、どのような姿になるのかなど事前にお配りした資料では理解が難しい部分もあったと思う。 宮崎市上下水道局の今後10年間の、事業の方向性を位置づける計画である。冊子として、皆様にお見せできるのは、次回の経営審議会以降だと考えているが、皆様からの様々な意見をいただければと思う。以上で私の挨拶とさせていただく。
財務課課長補佐	本日の審議会には、オンラインによる参加の3名を含む、9名の委員にご出席いただいている。 宮崎市上下水道事業経営審議会条例第5条第3項により、半数以上の

	委員が出席されているので、本会議が成立していることをご報告申し上げます。 本審議会は原則公開することとしており、会議の資料や議論された内容については、後日上下水道局のホームページに掲載し公開することになるので、ご承知おきいただきたい。 それでは、会議に入らせていただく。宮崎市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項の規定に基づき、会長に会議の進行をお願いする。
会長	それでは、第3回宮崎市上下水道事業経営審議会の開催にあたり、私からも挨拶を一言させていただく。 まず、先ほど局長からもあったが、昨日の大雨について皆様大丈夫だっただろうか。日南市や延岡市では被害が発生している。 災害が非常に身近に近づいてきているということを感じており、被害に遭われた方には心よりお見舞いを申し上げます。 また、先月は能登半島を中心とした奥能登豪雨が発生した。被災者の方々には地震の被害に加えて豪雨被害も重なり、心よりお見舞い申し上げます。経営審議会のたびに災害の話をしているように思うが、今回の豪雨災害で改めて自然の脅威と、災害への備えの重要性を再認識したところである。 本日は、新水ビジョンの構成案と投資・財政計画の説明、令和5年度決算報告がなされる予定である。上下水道事業を取り巻く環境も大きく変化しており、このような状況下において新たな成長戦略を描き、持続可能な上下水道事業を目指していく必要がある。これらを定めた新水ビジョンのテーマとなる基本理念の説明もあるようなので、方向性を十分議論したいと思う。 また、経営審議会では、皆様の豊富な経験と知見を結集し、活発な議論を展開することが重要と考えている。特に、新水ビジョンについては、今後の宮崎市上下水道局の方向性を示していく上で非常に重要な議題であり、皆様から率直なご意見を賜り、より良い未来に向かって進んでいきたいと考えている。簡単ではあるが、開会の挨拶とさせていただきます。 それでは、事務局より報告（1）「令和5年度決算報告」について説明をお願いします。
係長	【資料3】「令和5年度決算報告について」説明。
会長	報告（1）「令和5年度決算報告」についてだが、全ての事業の進み具合と、企業債の減少は順調に進むという認識でよいか。

	また、令和 7 年度以降は新料金で見込んでいるのか。
財務課長	全ての事業において順調に進んでいると考えている。なお、今回の決算における収支状況は現在の料金体系での金額となっている。令和 7 年度以降は新料金によって金額を算定する。 企業債については、当初見込んでいた残高よりも減少している。その要因としては、当初定めた 5 ヶ年計画の中で事業の優先順位をつけ、「選択と集中」により、投資の調整を図り、企業債なども合わせて減らしていったことが挙げられる。
会長	水道料金収納率について、令和 11 年度の目標値が 99.00%となっており、令和元年度から 5 年度までで既に 99.00%以上となっている。99.50%以上を目指すということはしないのか、あくまでも妥協点として 99.00%と設定しているのか。
料金課長	令和 11 年度目標値を 99.00%と定めた理由としては、目標値を設定した令和元年度当時、水道料金収納率は 99.00%に達していなかった。そのため、99.00%達成を目指し、その 10 年後も最低限 99.00%は維持することを目標にして、令和 11 年度目標値を 99.00%に設定している。
会長	他に、質問等はないか。続いて、事務局より議事 (1)「投資・財政計画」について説明をお願いします。
主幹	【資料 1】「投資・財政計画について」説明。
会長	ただ今の議事 1「投資・財政計画について」の説明に対して、委員の皆様からご質問等はないか。
委員	資料 1 の 7 ページ、「水道事業の資金残高 30 億円の確保」について、新たな料金改定が令和 11 年度に決定したとして、翌 12 年度から施行ということ表現していると思うが、表現するのであれば新料金での算定結果を表す赤い点線は 11 年度ではなく、12 年度からスタートした方がいいのでは？
財務課長	ご意見の通り、令和 11 年度から 12 年度の点線は消去する。
委員	その方が分かりやすいと思う。
会長	3 ページの水道事業の建設改良費について、事業の見直し等を行ったと書いているが、点線で示している昨年度の結果とあまり差がない。5 ページの公共下水道事業の建設改良費と比べると、そのように感じてしまうが水道事業の建設改良費は抑えることはできないのか。
財務課長	水道事業に関しては、選択と集中の考えによって優先順位をつける等、事業計画の見直しを行っており、令和 5 年度決算が出た中で再度事業費を見直してはいるが、更に抑制することは非常に厳しい状況だった。

	10年間の事業費が約400億円だが、元々事業費については年40億円程度を遵守しながら事業を進めていくとしているため、公共下水道と比べるとあまり抑制が働いてないということになってしまう。 一方の下水道事業については、補助や繰入金によって事業費が賄えるという状況がある。 また、料金改定を行ってきた中で皆様に議論していただいたが、汚水処理原価については165円という数字を出した。 このまま同じような形で投資を続けていくと、汚水処理原価が上昇する状況にある。今後、汚水処理原価に基づき使用料改定の検討を行う際に市民への負担が大きくなる可能性があるため、下水道事業については事業を厳選している。 予防保全的な部分と、事後保全的な部分を見直したものを積み上げた形で事業費の調整をしており、水道と公共下水道に差が生じている。
会長	8ページの「繰入金推移の見込み」だが、これは基準内と基準外を含んだグラフなのか。
財務課長	基準内、基準外を含んだグラフとなっている。
会長	繰入金の減少は非常に重要だと考えている。 続いて、議事2「新水ビジョンの構成案について」事務局より説明をお願いする。
主幹	【資料2】「新水ビジョンの構成案について」
会長	議事2「新水ビジョンの構成案」について、ポイントをまとめて説明いただいた。具体的な素案の提示は次回の審議会であり、内容も大幅な見直しを図られると思う。委員の皆様からご質問等はないか。
委員	大阪市は地下に電気や水道管などといったライフラインが集約されており、工事を行う人も安全に行えるといったことを先日知った。宮崎市としても、将来的にそのようにしていく考えなのか。
局長	恐らく共同溝のことだと思うが、そもそも本局と大阪市とでは地下管路の大きさが異なり、電線地中化の進捗とも関連しながら将来的にはそのようになると思うが、遠い将来だと考えている。 本局としては、国とベクトルを合わせる必要があり、今後の事業の方向性等については資料2でお示しした内容となる。ご理解いただければ幸いである。
会長	質問ではないが、4ページは非常に分かりやすい。 また、改めて確認だが、11月に冊子という形で素案を提示していただき、12月には修正点等を反映した内容の確認という流れであることを委員の皆様には認識していただきたい。

	次に議事（３）その他「新水ビジョン新名称について」事務局より説明をお願いします。
主幹	事務局からもう一点、本日、追加で配付した資料「新水ビジョンの名称について」の説明をさせていただく。第六次宮崎市総合計画でも仮称を使っていたため、本局としても新しい名称を決める必要があった。 新水ビジョンの名称は「みやざき水ビジョン（２０２５－２０３４）」とした。この名称に至った理由としては、始期と終期を明記することで計画期間を分かりやすくするためである。
会長	国も「水ビジョン２０５０」など、計画が終わりを迎える年数等を表示していることもあるため、この名称だと分かりやすくよいと思う。他に意見はあるか。ないようなので、事務局にお返しする。
財務課課長 補佐	会長には、会議の進行について感謝申し上げます。 次回の会議開催の日程は、先日ご案内させていただいたとおり、１１月２１日（木）１４時からの開催を予定しているため、皆様方におかれては、日程の調整についてお願い申し上げます。 また、先日お送りした第４回経営審議会の出欠票提出期限が本日までとなっているため、まだ提出されていない方については、事務局までご提出をお願いしたい。 それでは、以上で令和６年度第３回宮崎市上下水道事業経営審議会を終了する。
	（閉会）